

らくしゅう式
学習型・脳機能訓練

音読編 I

ゆうゆう

らくしゅう式 学習型・脳機能訓練

ゆうゆう 音読編 Ⅰ

目次

			ページ量
ゆう音読 1 ゆう音読 1-記憶	～	ゆう音読 7 ゆう音読 7-記憶 ・音読題材7つ	14p
ゆう音読 8 ゆう音読 8-なぞり	～	ゆう音読 1 3 ゆう音読 1 3-なぞり ・音読題材6つ	12p
ゆう音読 1 4 (イメージ) ゆう音読 1 4-記憶	～	ゆう音読 1 6 (イメージ) ゆう音読 1 6-記憶 ・音読題材3つ	6p
ゆう音読 1 7 (唱歌) ゆう音読 1 7-記憶	～	ゆう音読 2 2 (唱歌) ゆう音読 2 2-記憶 ・音読題材6つ	12p
			<hr/> 44p

対面式で行ないます。

参加者の希望や状態にそって教材を選びます（1回 2 ～ 3 p）。



こえに出して よみましょう。

1回目：はぎれよく、すらすらと
2回目：いみをかきがえながら
3回目：ひとによみきかせるように

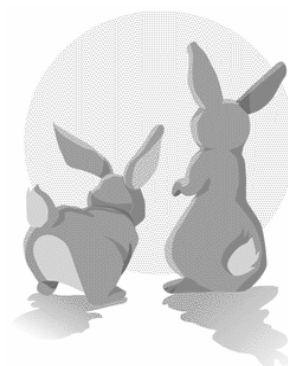
まんげつ よる
満月の夜、

つき
月のうさぎが

もちをつく。

ぺったん、ぺったん。

あき よかぜ むし こえ
秋の夜風と虫の声。



もういちど、こえに出してよみましょう。

うさぎ

秋

あき

声

こえ

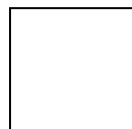


あき

の夜風と虫の

よかぜ

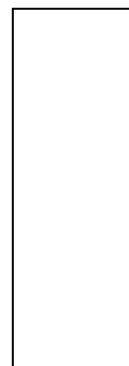
むし



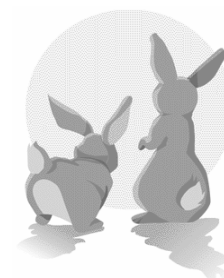
こえ

。

月の



、



こえに出してよみ、☐にもじをかきましょう。

「あしたは
ピクニックなんだ。」
「いいねえ。どこへ
でかけるんだい？」
「山やまのふもとの林はやしだ
よ。」
「いい運動うんどうだね。」
「気きをつけて
いってらっしゃい。」



こえに出して よみましよう。
1回目…はぎれよく、すらすらと
2回目…いみをかんだがえながら
3回目…ひとによみきかせるように

もう一度、声に出して読みましょう。

気

き

いってらっしゃい



いい運動だね。
うんどう



き

をつけて

。

こえに出してよみ、□にもじをいれましょう。

こえに出して よみましよう。
 1回目：はぎれよく、すらすらと
 2回目：いみをかんだえながら
 3回目：ひとによみきかせるように

こ が

まち

ある

木枯らしがふく街を歩く。

の

ベビーカーに乗せられた

あか

赤ちゃんは、ぐっすり

ねむ

眠っている。

ちい

あか

小さな 赤いほつぺが

こころ

なご

心を和ませてくれる。



もういちど、こえに出してよみましょう。

冷

つめ

温

あたた（かい）



あたた

か
そ
う
な
赤
ち
ゃ
ん
。

あか



つめ

たい
木
枯
ら
し
と

こ
が



こえに出してよみ、□にもじをかきましょう。

こえに出して よみましよう。

- 1回目…はぎれよく、すらすらと
- 2回目…いみをかんがえながら
- 3回目…ひとによみきかせるように

たちあ

サテお立会い！

てまえ

手前^{てまへ}に

と

取りいだしたるは

つくばさんめいぶつ

あぶつ

筑波山名物のガマの油。

もう

ガマと申してもただのガマとガ

ちが

マが違う！おんばこという

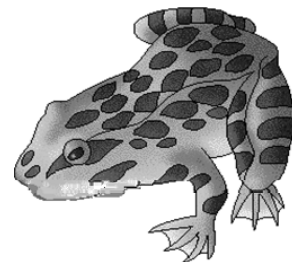
つゆくさ

そだ

しろく

露草をくろうつて育つた四六の

ガマだ！



こえに出してよみ、☐にもじをかきましょう。

サテお立

たちあ

☐

い！ここに

とりいだしたるは

つくばさんめいぶつ

筑波山名物ガマの

あぶら

☐

。

会

あ

油

あぶら

もういちど、こえに出してよみましょう。

こえにだして よみましよう。

- 1 回目：はぎれよく、すらすらと
- 2 回目：いみをかながえながら
- 3 回目：人によみきかせるように

おどろ

もも

きさんしよ

き

驚き桃の木 山椒の木

しやりき

くるまひ

あたりき車力よ車曳き

あり

たい

いもむし

くじら

蟻が鯛なら芋虫や鯨



桃

もも

車力よ

しゃりき

くるま
車ひき

あたりき

しゃりき
よ

さんしょの木
き

おどろき

もも

の木
き



こえに出してよみ、□にもじを入れましょう。

こえに出して よみましよう。

1回目…はぎれよく、すらすらと
2回目…いみをかながえながら
3回目…うたうように

はら

わたの原

い

こぎ出でてみれば

ひさかた

久方の

くもい

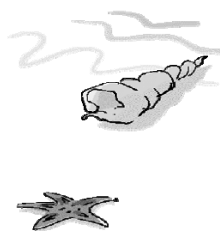
ごう

雲ゐにまがふ

おき

しらなみ

沖つ白波



口を大きくあけて、大きな声で謳いあげるように
詠んでみましょう。
「ワタノハラアーー（語尾の音をあげて）」

こえに出してよみ、☐にもじをかきましよう。

わたの



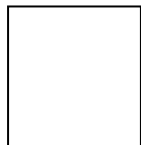
はら

こぎ出^いでて見^みれば

久方^{ひさかた}の

雲^{くも}み^いにまがふ

おき



つ白波



原

はら

沖

おき

もういちど、こえに出してよみましょう。

こえに出して よみましょう。
 1回目：はぎれよく、すらすらと
 2回目：いみをかながえながら
 3回目：うたうように

がた

みじか

あし

なにわ潟

短き芦の

ま

ふしの間も

よ

あわでこの世を

すぐしてよとや

いせ

伊勢



口を大きくあけて、大きな声で謳いあげるように
 詠んでみましょう。
 「ナニワガターー（語尾の音をあげて）」

間

ま

世

よ

もういちど、こえに出してよみましょう。

すぐしてよとや

あはでこの



よ

を

ふしの



ま

も

なにわ潟

がた

短き芦の

みじか

あし

こえに出してよみ、□にもじをかきましょう。



こえに出して よみましよう。
 1回目：はぎれよく、すらすらと
 2回目：いみをかかんがえながら
 3回目：人によみきかせるように

すいせん はな

水仙の花のよいかおり。

ひあた

へい した

日当たりのよい塀の下に

なら さ

並んで咲いている。

ある

かぞ

歩きながら数えてみた。

1、2、3、4、：

きんじょ ごとう

あら、近所の後藤さん。

：いくつまで

かぞえてたつけ：？



こえに出してよみ、もじをなぞりましょう。

並ならんで咲さいている

すい
せん

水仙をかぞえる。

1、2、3、4。



もういちど、こえに出してよみましょう。

こえに出して よみましよう。

- 1 回目…はぎれよく、すらすらと
- 2 回目…いみをかんだえながら
- 3 回目…人によみきかせるように

みち

かれは

道に 落ちた枯葉に

どこから きたのか

ももいろ はな

桃色の花びらも

まじっている。

あつ

ほうきで 集めたら

に

あわてたアリが 逃げていった。



こえに出してよみ、もじをなぞりましょう。

かれ
は

枯葉をほうきで

あつめる。



もういちど、こえに出してよみましょう。

こえに出して よみましょう。

1回目：はぎれよく、すらすらと

2回目：いみをかんだえながら

3回目：人によみきかせるように

風邪^{かぜ}をひいた。

熱^{ねつ}が 三十七度六分^{さんじゅうしちど ろくぶ}ある。

シヨウガ湯^ゆを飲^のんで

身体^{からだ}を あたためよう。



こえに出してよみ、もじをなぞりましょう。

かぜをひいて

ねづがでた。

ショウガ湯ゆをのんで

あたたまるう。



もういちど、こえに出してよみましょう。

こえにだして よみましよう。
 1回目…はぎれよく、すらすらと
 2回目…いみをかんだえながら
 3回目…人によみきかせるように

いぬ ある

犬も歩けば ぼうにあたる

やま

ちりも つもれば 山となる

たな

棚からぼたもち



もういちど、こえに出してよみましょう。



棚たなから
ぼたもち

犬いぬもあるけば
ぼうにあたる

こえに出してよみ、もじをなぞりましょう。

こえに出して よみましよう。
 1回目：はぎれよく、すらすらと
 2回目：いみをかながえながら
 3回目：うたうように

しろかね

銀も

くがね

たま

なに

金も玉も

何せむに

たから

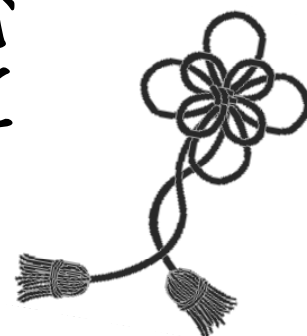
まされる宝

こ

子にしかめやも

やまのうえの

山上おくら



口を大きくあけて、大きな声で謳いあげるように
 詠んでみましょう。

「シロカネノオー」（語尾の音をあげて）

こえに出してよみ、なぞりがきをしましょう。

しろかねも くかねも玉たまも

何なにせむに まされる宝たから



子にしかめやも

もういちど、こえに出してよみましょう。

こえに出して よみましよう。
 1回目：はぎれよく、すらすらと
 2回目：いみをかんだえながら
 3回目：大きな声で歌いましよう。

ぽつ ぽつ ぽつ

はと

鳩ぽつぽ

まめ

豆がほしいか

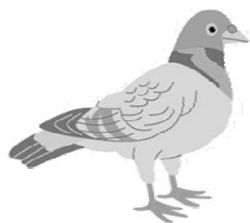
そらやるぞ

なかよ

みんなで仲良く

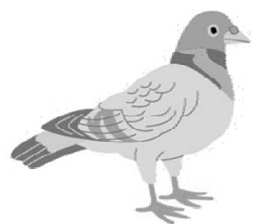
た こ

食べに來い



文部省唱歌

もういちど、こえに出してよみましょう。



そ 豆^{まめ} 鳩^{はと} ぽ
ら が ぽ つ
や ほ つ ぽ
る し ぽ つ
ぞ い ぽ
か

こえに出してよみ、なぞりがきをしましょう。

おしやべりしている。

赤い靴をはいている。

もうひとりは

手提げをもち、

ひとりは黄色い

女の子が二人。

こえに出して よみましょう。
1回目：はぎれよく、すらすらと
2回目：いみをかかんがえながら
3回目：人によみきかせるように



情景をイメージして
でてきた単語を
覚えましょう。

女の子、黄色、赤色

女の子	おんなこ
男の子	おとこ
ベンチ	
黄色	きいろ
青色	あおいろ
赤色	あかいろ
リュック	
けんか	

でてきたことばに○をつけましょう。

こえに出して よみましよう。
 1回目：はぎれよく、すらすらと
 2回目：いみをかながえながら
 3回目：人によみきかせるように

やおや、スーパー、

あか とりい

赤い鳥居、

はし

橋をわたると

がっこう しろ こうしや

学校の白い校舎。

わ や

そのむこうが我が家。



情景をイメージして
 でてきた単語を
 覚えましょう。

やおや、赤、白、橋

白 しろ

橋 はし

さかなや

赤 あか

青 あお

やおや そうじ



でてきたことばに○をつけましょう。

わからないときは
前のページにもどって
読み直しましょう。

こえに出して よみましよう。
 1回目：はぎれよく、すらすらと
 2回目：いみをかながえながら
 3回目：人によみきかせるように

みなと

ふね

港から船がでる。

とお

うみ

りょう

遠くの海へ漁にゆくのだ。

はは

母とぼくは

ちち

て

父に手をふる。

ちち

あか

やきゅうぼう

父の赤い野球帽が

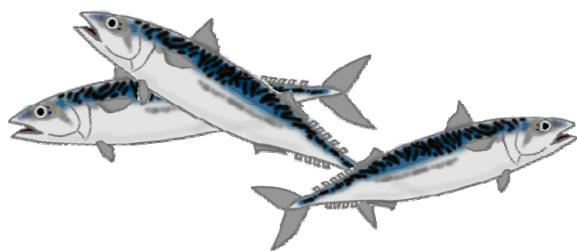
み

見えなくなるまで

て

ふ

いつまでも手を振った。



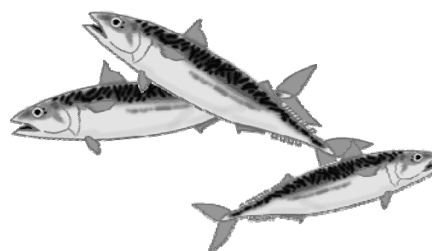
情景をイメージして
 でてきた単語を
 覚えましょう。

船、
ぼく、
赤い、
手

手 ^て	赤 ^{あか} い	妹 ^{いもうと}	青空 ^{あおぞら}
トラ ッ ク		ぼ く	船 ^{ふね}

でてきたことばに○をつけましょう。

わからないときは
前のページにもどって
読み直しましょう。



こえに出して よみましよう。

- 1回目：はぎれよく、すらすらと
- 2回目：声にだしてうたいましよう
- 3回目：手指の動作をくわえましよう

らくしゅう©

あか とり

『赤い鳥小鳥』作詞 北原 白秋

赤い鳥ことり

あか

なぜなぜ 赤い

あか み

赤い実を たべた

しろ とり

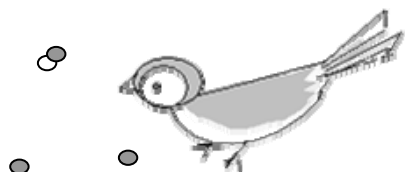
白い鳥ことり

しろ

なぜなぜ 白い

しろ み

白い実を たべた



手指の動作：うたいながら、グー、チョキ、パーの動作を
曲の拍子にあわせて、連続して行ないます。
(片手、両手は自由)

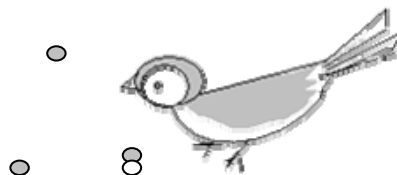
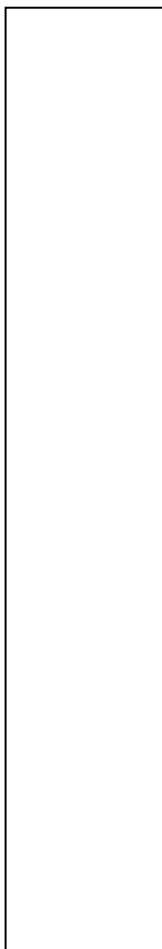
『日本百名歌』主婦の友社

こえに出してよみ、もじをかきましよう。

あか
とり
赤い鳥 ことり

あか
なぜなぜ赤い

あか
い
み



あか
み
赤い実をたべた

もういちど、こえに出してよみましよう。

らくしゅう©

もういちど、こえに出してよみましょう。

月夜

つきよ



皆

みな



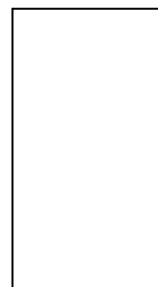
こい
こい



みなで

出て
こい

つ
つ



つきよ

だ

しょうじょうじ
証城寺の庭は
にわ

こえに出してよみ、□にもじを入れましょう。

こえに出して よみましょう。

- 1回目：はぎれよく、すらすらと
2回目：声にだしてうたいましょう
3回目：手指の動作をくわえましょう

ゆうぞら

夕空はれて あきかぜふき

お

すずむし

つきかげ落ちて 鈴虫なく

とお

こきよう

おもえば遠し 故郷のそら

ちちはは

ああわが父母 いかにおわす



「故郷の空」

作詞 大和田建樹

『日本百名歌』主婦の友社

手指の動作：うたいながら、グー、チョキ、パーの動作を
曲の拍子にあわせて、連続して行ないます。（片手、両手は自由）



もういちど、こえに出してよみましょう。

故郷

こきょう

父母

ちちはは

いかにわす

ああわが

ちちはは

のそら

こきょう

おもえば 遠し

とお

こえに出してよみ、もじをかきましょう。



こえに出して よみましよう。

1回目：はぎれよく、すらすらと

2回目：声にだしてうたいましよう

3回目：手指の動作をくわえましよう

『もみじ』 作詞 高野 辰之

あき ゆうひ

秋の夕日に

て やま

照る山 もみじ

こいも うすいも

なか

かずある中に

まつ

松をいろどる かえでや

やま

つたは 山のふもとの

すそもよう



『日本百名歌』主婦の友社

手指の動作：うたいながら、グー、チョキ、パーの動作を
曲の拍子にあわせて、連続して行ないます。（片手、両手は自由）

こえに出してよみ、□にもじをいれましょう。

あきの ゆうひ

に

て
照る山 もみじ
やま

こいもうすいも

なか
かずある中に



あき ゆうひ

秋の夕日

もう一度、声に出して読みましょう。

こえに出して よみましよう。
 1回目：はぎれよく、すらすらと
 2回目：声にだしてうたいましよう
 3回目：手指の動作をくわえましよう

『早春賦』 作詞・吉丸一昌

はる

な

かぜ

さむ

春は名のみ

風の寒さや

たに

うた

おも

谷のウグイス

歌は思えど

とき

こえ

た

時にあらずと

声も立てず

とき

こえ

た

時にあらずと

声も立てず



『日本百名歌』主婦の友社

手指の動作：うたいながら、グー、チョキ、パーの動作を
 曲の拍子にあわせて、連続して行ないます。（片手、両手は自由）

もういちど、こえに出してよみましょう。

名

な

谷

たに

うたは思えど

おも



のウグイス

たに

風の寒さや

かぜ

さむ

春は

はる



な

のみの



こえに出してよみ、もじをかきましょう。

こえに出して よみましよう。

- 1回目：はぎれよく、すらすらと
- 2回目：声にだしてうたいましよう
- 3回目：手指の動作をくわえましよう

「うみ」

作詞・林 柳波

らくしゅう©

うみは ひろいな

おお

大きいな

つき

月が のぼるし

ひ

日が しずむ

おお

うみは 大なみ

あおい なみ

ゆれて どこまで

つづくやら



『日本百名歌』主婦の友社

手指の動作：うたいながら、グー、チョキ、パーの動作を
曲の拍子にあわせて、連続して行ないます。（片手、両手は自由）

もう一度、声に出して読みましょう。

月

つき

日

ひ

大きな

おお

うみは ひろいな



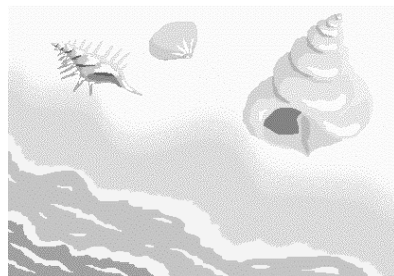
が



が

しずむ

のぼるし



こえに出してよみ、□にもじをいれましょう。

音読編 Ⅰ

らくしゅう式
学習型・脳機能訓練

